図書館だより

LIBRARY INFORMATION

ゆっくり本を楽しむ

今月のおススメ

medium 霊媒探偵城塚翡翠
相沢 沙呼　著

迷子手帳【千代田分館所蔵】
穂村 弘　著

❸月 図書館カレンダー

2025 年　March

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 ■	4	5	6	7	8 ◎
9	10 ■	11	12	13	14	15
16	17 ■	18	19	20	21	22
23	24 ■	25	26	27	28 ■	29
30	31 ■					

今年の節分は２月２日でした。地球が太陽の周りを公転する周期は１年よりわずかに長いことから、立春の時刻が少しずつずれ、閏年（うるうどし）のように暦が調節されるそうです。今月は「視点のずれ」をテーマに、世の中を異なる角度で見ている世界観が魅力的な本をご紹介します。

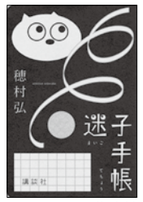
medium 霊媒探偵城塚翡翠（れいばいたんていじょうづかひすい）

推理作家の香月史郎と、霊媒を得意とする城塚翡翠がバディを組みさまざまな事件に挑みます。翡翠は美しいだけでなく、降霊で謎を解き明かし、霊媒師として事件を解決に導きます。また、段々と変化する香月と翡翠の関係にも注目です。後半になるにつれ予想外の展開をみせる物語に、ページをめくる手が止まりません。未読の方はもちろん、一度読んだ方も違う視点になって楽しめる一冊です。

講談社

迷子手帳 【千代田分館所蔵】

現代短歌を代表する歌人、穂村弘の最新エッセイ集。少年時代から現在に至るまで、ふと感情が迷子になった瞬間が 57 編収録されています。臆病な自分を打破するため、学校をサボりドキドキしながら向かったファミレスでバイトしている同級生の眩しさ。みんなと格好が違ったらと不安だった遠足の朝。クスッとしたり、しんみりしたり、気持ちが迷子になりがちな方が共感できる一冊です。



講談社

■**休館日**：月曜日 、図書整理日
◎**お話会**：工作「春をさがそう」
3 月 8 日㊏午前 10 時 30 分から

ホームページでは、利用案内や図書検索など図書館の情報を掲載しています▶

問 図書館 ☎ 029-897-0647

図書館ボランティアのご案内

- 毎月第２土曜日に「石のスープの会」によるお話会を開催しています。
- 「つくしんぼの会」は、児童クラブ・保育所などへ読み聞かせを行っています。
- 「読書会」「ひばりの会」「朗読ボランティア - せせらぎ」が活発に活動しています。会員募集中です。

文芸ひろば

投稿作品

WEB で投稿できます

千代田俳句同好会
「前略」と筑波の山の年始かな　今井 守
ほつほつと寒紅梅の開きけり　大西 周
アルバムは若き日のまま山眠る　加藤貞江
寒晴やコーヒーを手に読書して　北原千恵子
せせらぎを枕辺に聞く雪の宿　榊原清志
家々の窓の輝き冬夕焼　桜井愛子

紫陽花俳句会
ふつふつと七草粥や母の味　久保庭悦子
青き空水面に映し鳥遊ぶ　島田和子
シャッター街スプレーアートで春を呼ぶ　原田佳世子
さくさくと後追ひかける霜の音　島田昌男

出島短歌会
「おはよう」と声かけくれる人ありて今朝の日差しはとても明るい　仲谷香代子
湯場に架く兄手作りの竹花瓶ヒメジョンを挿し母は居眠る　薬師寺玲子
忘却のなかへすべてを投げ込みてしずかに生きる施設の人よ　岡田恭子
ウーロンの箱に入れられ捨てられてあれから三月我が家の猫となる　名倉靚子

投稿作品
いつしらに齢かさねて喜寿に入るつた得れば笑むや笑むか父母よ　中島良平
畦道を冷たい風が吹抜けりふと見上げるとほほ笑む雲かな　飯島すみ子
古来より紡ぎし伝統消えゆくも幸多かれと願う初春　沽野はつ子
大寒過ぎ山並みいつか春めけり夜明けの光四方を照せり　石塚 清
我思う冬は嫌いだ春よ来い朝昼夕と散歩がしたい　矢口哲雄
帰宅路の湖面に映る家々の灯りに癒やされる　高野新一
水鳥のこゑもめでたき凪の湖　竹村啓子
早暁の日の出と西空の月仰ぐ　釈 一浄
七十路もなほ迷ひ道春立てり　兼西清治
冬の朝踏むと綺麗な霜の音　古谷野陽太
春風に老舗の小旗一新し　中村耕二

投稿作品（俳句・短歌・川柳）を募集します。３月５日㈬までに秘書広報課（〒315-8512 上土田 461）へお願いします。
※応募多数の場合は掲載されない場合があります。また、【電話番号】【漢字にはふりがな】の記載をお願いします。

歴史にふれる

かすみがうら市ゆかりの世界的大スター 坂本九

坂本九　2025 年は没後 40 年

「上を向いて歩こう」が、日本人初のゴールドディスクを受賞。そして 100 万枚以上の世界的売り上げを誇った歌手であり俳優、テレビ番組司会者をこなすマルチな活躍をした人物が坂本九です。

坂本九は、母親が笠間市出身ということで、笠間稲荷神社で結婚式を行うなど、笠間市とのつながりがよく紹介されますが、坂本九の「坂本」という姓は、実はかすみがうら市の坂本家です。

坂本九の父である坂本寛は、後に神奈川県川崎市へ移住したため、坂本九の実家は現在市内にはありませんが、田伏地内の菩提寺に祖父・父・兄弟の墓があるため、坂本九は度々かすみがうら市を訪れていました。しかし、残念ながら 1985 年に起こった航空機による事故のため、43 歳の若さで亡くなり、今年は没後 40 年の年となります。

祖父は帆引き船を秋田県八郎潟に伝えた功労者

明治時代、坂本九の祖父である金吉は、霞ヶ浦の水産物加工業と行商を仕事としていました。そんなある日、坂本金吉は秋田県八郎潟には魚はいるが漁業が盛んではないことを聞き、八郎潟に出向きました。試しに、霞ヶ浦で当時行われていたエビ漁を行ったところ、八郎潟でも立派なエビをたくさん獲ることができたため、金吉は秋田県移住を決めました。

八郎潟では、霞ヶ浦の漁法を次々と行い、ついには帆引き船も導入しました。八郎潟の帆引き船は、打瀬船（うたせぶね）と呼ばれ、西側にある寒風山から吹き下ろされる風を帆に受け、底引きする姿を地域の人々に印象付けていきました。

坂本九とかすみがうら市

歴史博物館では、平成 20 年に特別展「帆引き船と坂本九」を開催し「展示解説書」を発行しました。「展示解説書」は歴史博物館と図書館で閲覧できますので、ぜひご来館ください。

問 歴史博物館
☎ 029-896-0017

当時の特別展ポスター

総合型地域スポーツクラブスタッフのコラム ／ KSC なかよしクラブ 松庫義弘（まつくらよしひろ）さん寄稿

スポーツで『地域』を元気に

問 スポーツ振興課
☎ 029-898-9907

スポーツ鬼ごっこの魅力を伝える

市内で活動している総合型スポーツクラブ「なかよしクラブ」の事業の一つに、市内の小学校に出向いて子どもたちとスポーツを楽しむという出前授業があります。

令和６年度は、霞ヶ浦南小学校・霞ヶ浦北小学校・下稲吉東小学校に出向き、スポーツ鬼ごっこの魅力についてお伝えしました。当日は、なかよしクラブのスポーツ鬼ごっこ担当で指導者である小林さん夫婦とスタッフがルールなどを説明し、児童たちに体験してもらいました。昔の鬼ごっこを現代風にアレンジした競技で、７人が１チームとなり、全員が役割を分担して相手のお宝を奪い合います。体験した児童からは「楽しい」「もっとやりたい」と声があり、出前講座は好評のうちに終了しました。

スポーツ鬼ごっこは、全国大会があるなど年々競技人口が増えており、一部の学校では冬の体育授業として採用しているところもあります。

なかよしクラブでは、チーム「かすみがうら Wing」を立ち上げ各大会へ出場しています。ぜひ体験にお越しください。

スポーツ鬼ごっこは、年齢関係なく楽しめる競技です。ルールなどの詳細は、スポーツ鬼ごっこ専用ホームページよりご覧ください。
専用 HP

「総合型地域スポーツクラブ」に参加しませんか？

種目 スポーツ広場、硬式テニス、太極拳、ピンポン、フットサル、よさこいソーラン、軽音楽、社交ダンス、ウォーキング、グラウンド・ゴルフ、英会話広場、スポーツ鬼ごっこ、スポーツ吹矢
▲詳細

連絡先
KSC なかよしクラブ
☎ 090-2417-8502（大和）
KSC エンジョイスポーツ
☎ 090-2420-7846（高田）